

日本児童英語教育学会

(The Japan Association for the Study of Teaching English to Children)

第2回研究大会 兼 第54回中国・四国支部研究大会のご案内(第2次案内)

日本児童英語教育学会 会長 泉 恵美子
同 中国・四国支部 支部長 平本 哲嗣

拝啓 猛暑が続きますが、JASTEC 会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素は日本児童英語教育学会中国・四国支部の発展のためにご協力いただきありがとうございます。

さて、本支部におきましては、毎年児童英語教育に関する研究会を重ねておりますが、本年度は JASTEC 2025年度第2回研究大会を兼ねて、来る8月31日(日)に下記要領により第54回中国・四国支部研究大会を開催する運びとなりました。

小学校英語教育に関わる先生方、また、児童英語教育の現場でご活躍の皆様にとりまして、本大会が有益な情報発信と情報交換の場となることを心より願っております。今大会は、オンライン実施ということで、全国よりどなたでもご参加いただけます。JASTEC会員はもとより、小学校や児童英語教育の現場でご活躍の皆様、また小学校外国語活動・児童英語に関心をお持ちの皆様、どうぞお誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

敬具

記

日時: 2025年 8月 31日(日)

12:40 受付開始 13:00 開会 17:00頃 終了予定

会場: オンライン(Zoom)

※研究大会前日 18 時にメールにて参加用の URL 等をお知らせいたします。

※Zoomの操作方法については、事前に公式の[サポートページ](#)をご確認ください。

参加費: 会員無料(今年度分の会費が未納の場合は、お早めに納入をお願いいたします。)

非会員: 一般1000円、学部生無料

※非会員で入会希望の方は、下記申込ページより年会費をお支払いください。

本大会より会員として参加ができます。

申込: 会員・非会員にかかわらず、事前申し込みが必要です。

[こちらのリンク](#)または[二次元バーコード](#)から申し込みフォームに進み、

必要事項を記入・送信してください。

申込期限 2025年 8月 30日(土) 17:00

※キャンセルは受け付けておりませんのでご注意ください。

※領収書は、受領証やクレジット決済の証明をご利用ください。

別途必要な場合、本ファイル最終ページに示す事務局までお問い合わせください。



第2回研究大会 兼 第54回中国・四国支部研究大会 プログラム

12:40ー 開場

13:00ー 開会のあいさつ

13:05ー13:35 研究発表・実践報告①

第一会場 ブレイクアウトルーム1(13:05ー13:35)

子供一人一人が友達やALTとお互いのことをよく知るために、伝えたい内容を考え、
学び合いを通して内容を深めていくことを目指した「書くこと」の指導

発表者: 今西 佑(にしみたか学園三鷹市立第二小学校)

6年生 Here We Go!6 Unit3 What time do you get up?「My Dayカードを書いて週末の過ごし方についてたずね合おう。」

子供一人一人が友達やALTとお互いのことをよく知るために、伝えたい内容を考え、学び合いを通して内容を深めていくことを目指した「書くこと」の指導について発表します。知識・技能と思考・判断・表現を育成する過程を大事にし、子供のモチベーションや書きたい気持ちを高め、各領域のつながりを意識した指導の実践です。個人差が大きい書くことの指導における、具体的な協働的な学びと個別最適な学びについてもご紹介します。

第二会場 ブレイクアウトルーム2(13:05ー13:35)

小学校教員養成課程「外国語の指導法」の授業を通して見えた学生の変容と課題

発表者: 澁井 とし子(東京福祉大学)

本研究では小学校教員養成課程の学生40名を対象に小学校での「英語指導力」「英語運用能力」及び「英語使用に対する情意面と動機づけ」の3項目に関して、外国語の指導法15回の授業内での学生の変容を調べた。質問紙調査(泉他, 2024)を行い、学期初めと終わりとしてt検定を行ったところ、「英語指導力」と「英語運用能力」は有意差が見られたが、「英語使用に対する情意面と動機づけ」に関しては、統計的に有意差はなかった($p = .10$)。しかし、上記の3項目について相関分析を行った結果、「英語指導力」と「英語使用に関する情意面と動機づけ」は、学期初めには中程度の正の相関($r = .41, p = .01$)であったが、学期末には強い正の相関($r = .80, p < .001$)となった。このことから、授業で徐々に学生が英語指導力を身につけることで、より英語使用への動機づけが高まると考えられる。また、英語運用能力は、授業内での更なる英語力向上が必要であると明らかになった。

13:40－14:10 研究発表・実践報告②

第一会場 ブレイクアウトルーム1(13:40－14:10)

生成AIを活用した教材作成(ワークショップ)

発表者:平本 哲嗣(安田女子大学)

本ブレイクアウトルームでは、オンラインにてワークショップを開催します。
ChatGPTなどの生成AIを使ってSmall talkのテーマを作成したり、教科書で扱われている表現を使った対話例を作成したり、それを曲にしたりするなど、教材作成のヒントとなるようなAIの活用方法を一緒に体験しましょう。

第二会場 ブレイクアウトルーム2(13:40－14:10)

反転授業における学生の自己評価と他者評価

発表者:國本 和恵(岡山理科大学非常勤講師)

本研究の目的は、反転授業における学習力について、自己評価と他者評価の差異を検証することである。反転授業の成功の鍵としては、「アクティブ・ラーニングの外化」が重要であると指摘されている(三保・本田・森・溝上, 2016; 小山・溝上, 2018)。ここでいう「アクティブ・ラーニングの外化」とは、①議論や発表の中で自分の考えをはっきりと示すこと、②根拠を持ってクラスメイトに自分の意見を伝えること、③クラスメイトに自分の考えを効果的に伝える方法を工夫すること、を含むものである。本研究においては、自己評価・他者評価の双方で、こうした「アクティブ・ラーニングの外化」が授業の中でどのように現れているかについて、具体的な記述が確認された。さらに自己評価においては、これに加えて「小学校外国語の指導方法」に関する気づきや学びについても記述が見られた。

全体会

14:20－15:00 実践報告

小学校中学年におけるフォニックス指導の実践報告

発表者： 沖本 美佳 先生(広島市立戸坂城山小学校)

本実践は、英語の読み書き能力を養うための1つの指導法であるシンセティック・フォニックス指導を行うことで、「英語が読める」と実感できる子どもを育成することを目的としたものである。発表者が勤務する公立小学校中学年を対象に、年間35時間の毎授業において、冒頭約10分間3年生25音素、4年生30音素(25音素+ダイグラフ5音素)の指導を行った。指導の効果検証として単語中の音素を特定し位置を把握する音韻認識タスク及び、デコーディングテストを実施した。その結果、習得の難しい音素と比較的容易な音素の傾向が見えたこと、文字を音声化する力は調査を行った10月から3月にかけて促進され、特に4年生に十分な効果が見られたこと、初期に学習した音素の正答率が高いことから復習に効果があることが示された。本発表では、2024年度に行った実際指導の様子を紹介する。

15:00－15:10 休憩

15:10－16:40 講演

生成AIを活用した外国語授業の理論と実践
－発達段階に応じた指導の工夫と展開－

講師： 金丸 敏幸 先生
(京都大学 国際高等教育院 准教授)

本講演では、生成AIの外国語教育活用を、「具体から抽象へ」「簡潔な発信から論理的発信へ」という発達段階の2軸で論じます。小学校では、AIを安全な「対話の足場」と見立てます。たとえば、絵や写真から平易な英語の説明文を生成させ、それを参考に児童が自分の言葉で発話する活動です。間違いを恐れず英語を使う成功体験を重ねることが、後の学習意欲の土台となります。この土台の上に、中学校では知識の定着と実践的な運用を目指し、AIを「表現を広げるパートナー」として活用します。身近な話題から社会問題へとテーマを広げ、AIからフィードバックを受けながら自分の考えを伝える多様な表現を学ぶことで、表現の正確性と幅を広げます。中学校で培った表現力をさらに発展させ、高等学校ではAIを「論理的思考を支えるアドバイザー」と位置づけます。エッセイ作成時に論理構成の助言を求めたり、多角的な視点や反論を提示させたりすることで、思考を深め、説得力のある創造的な発信力を育成します。このように各段階の学びを繋ぐ連続的な指導の工夫と、AIを効果的に活用する教員の指導力についても展望します。

16:40－16:45 閉会のあいさつ

【お問い合わせ先】

JASTEC 中国・四国支部事務局

〒731-0295 広島市安佐北区可部東一丁目2番1号

広島文教大学 戸井一宏 研究室内

E-mail: jimukyoku@jastec-cs.com